

(別紙様式)

都道府県番号	2
都道府県名	青森県

(    )  
該当する観点にチェックをすること

I. 学校名及び規模

三沢市立三沢小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員
学級数	3	2	2	2	2	1	1	13	19
児童数	68	70	57	63	46	38	2	344	

II. 実践研究の概要

・主題(テーマ)

一人一人に確かな学力をつけさせていくための指導のあり方

・テーマ設定の趣旨

新学習指導要領では、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項として、「児童が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や児童の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、教師の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること」とある。

そこで本校では、個に応じた指導のためのTT(ティームティーチング)や習熟度に応じた学習を取り入れて、児童がどのような点でつまずきそれを改善するにはどのような支援をしていけばよいかを明確にしていけば一人一人の児童に学習内容が定着していくのではないかと考え、上記のテーマを設定した。

III. 実践研究の内容について

(i) 研究体制の工夫

習熟度別の学習というのは新しい試みであり、保護者の理解・協力を得ることが不可欠であることから、まずはPTAの役員会・参観日・プリント配布などで取り組みを知らせ理解してもらうことから始めた。

また、教師側にとっても未知の分野であったので、まずは4年生の教材を中心にコース分けや教材作り、指導の手立てや評価の方法などを全員で研修していき、その中でこれから各学年で取り組む上での共通理解すべきことを確認していった。

○習熟度別学習を実施していく手順

①どの単元のどの時間に行くかを決める。

・大単元終了後、小単元終了後、単元通して全時間(全単元)、学期の終わり など

②コースの設定をする。

・基礎1、基礎2、応用コースの3コースを基準とする。(名前をつけてもよい)

・今年度は児童と保護者の希望でコースを決める。(事前テストや単元テストを返して判断してもらう)

③各コースの教材を作る。

- ・テスト結果をもとに誤答の傾向をまとめ、教材(プリント)を作る。(基礎1・2)
- ・誤答がほとんどない応用コースでは、発展的な問題を含む教材を作る。

④評価について決める。

- ・関心意欲については、各コースの担当が評価する。
- ・その他の項目に関しては、テストをもとに評価基準にのっとり行う。

(ii)実践研究の内容

○習熟度別のコース別学習・実施単元

1年 「3つの数の計算」 全単元・7時間

「たしざん(2)くりあがり」 全単元・7時間

「ひきざん(2)くりさがり」 大単元終了後・2時間

2年 「たし算とひき算の筆算(2)」 小単元終了後・2時間

3年 「時間と長さ」 大単元終了後・2時間

4年 「大きな数」 大単元終了後・2時間

「小数」大単元終了後・2時間

5年 「小数のかけ算とわり算(2)」 全単元・13時間、大単元終了後・2時間

6年 「単位量あたり」 大単元終了後・2時間

「分数のかけ算」 大単元終了後・2時間

○大(小)単元終了後のコース別学習

大単元終了後に単元テスト(小単元終了後のミニテスト)を行い、到達得点に達していない内容を補充する手立てとして1,2時間程度行う。また、到達得点に十分達している児童には発展的な問題に取り組みませ内容の定着をより深める。

コースを3つに分け、学級担任とTT、教務主任等で指導の担当をした。コースによって人数の偏りが大きい場合は、補助としてもう1人に入ってもらい丸付けや個別指導を担当してもらった。基礎1・2コースでは、定着の低い内容に関する問題にヒントやアドバイスを付けてなるべく自力解決に向かえるように工夫した。

《例 4年「小数」》

①たろうくんの身長は、1.3mです。

1.3mは、 m  cmで

1.3mは、1mと0.3mを  
合わせた数だよ。  
0.1m = 10cmだ!!

す。

②5.9は、0.1を( )こ  
あつめた数  
す。

5 は 0.1を( )こ  
0.9は 0.1を( )こ あつめた数  
合わせて ( )こ

応用コースではまずひとつおりの単元の復習をした後、発展的な問題に取り組みませた。1つの問題を正したら次の問題にいけるといように、段階も考えながら準備した。

《例 4年「小数」》

①はりがねが4.6mあります。このはりがねを1m50cm使うと、のこりは何mですか。

式

答え

②0.7lはいるコップと、0.2lはいるコップがあります。この2つのコップを使って、ビンの中に0.10だけ水をいれるためにはどのようにすればいいでしょうか。文章で答えをかきましょう。

どのコースも終了約20分前に、単元テストを再度行い、コース別の学習前の結果と比較し、到達得達しているか、定着度が上がっているか確認した。

○全単元コース別学習

単元の全時間通して、コース別学習を行う。分ける手立てとしては、その単元と関連のある既習単元のテスト結果などをもとにする。

どのコースも授業の時数や到達目標は同じであるが、そこに至るまでの過程をコースの児童の実態に合わせて工夫した。基礎1・2コースは具体物操作や声に出して繰り返し覚えるなどの活動を多くしたり、提示物を工夫したりして、意欲の持続にも配慮した。応用コースは理解力や意欲が高い子が多いので、発展的な内容を含む練習問題の時間を多く取ったり、自分で問題を作るという時間を設定したりした。

《例 1年「3つのかずのけいさん」》

指導計画(全7時間)

小単元	ページ	内 容	コース①	コース②	コース③
3つのかずの けいさん	58	・「加・加」の場面理解と計算の仕方	1	1	1
	59	・「減・減」の場面理解と計算の仕方	1 4	1 4	1
	60	・「減・加」「加・減」の場面理解と計算の仕方	2	2	2 4
(定着・発展)		・ドリル類による計算の定着 ・文章題の問題づくり	1 2	1 2	1 2
			1	1	1
おさらい ワークテスト	61	・20までの数の数え方、10以下の加減計算、10の補数 ・「加・加」「減・減」「減・加」「加・減」の計算の仕方、問題づくり	1 1	1 1	1 1

(iii) 成果と課題

○成果

・習熟度別学習を行うことにより、基礎基本の定着度が上がった。(例 4年「小数」単元テストの結果)

	基礎コース1		基礎コース2		応用コース		平均	
	前 回	今 回	前 回	今 回	前 回	今 回	前 回	今 回
知識・ 理解 (50点)	24.3	37.6	41.5	44.9	43.5	46.4	40.9	44.9
表現・ 処理 (50点)	33.5	36.3	45.2	46.3	46.6	47.1	44.8	45.6
合 計 (100点)	57.8	73.8	86.8	91.3	90.1	93.5	85.8	90.5

・習熟度別のコース別学習を行うことで、「算数の勉強がわかるようになった」と児童の自己評価が高まった。(全校児童の91.1%) また、保護者の83%が何らかの学力向上効果があったと答えており、全般的に好意的な意見が多かった。

課題

・習熟度別学習の際のコースを決める方法については、教師側の不満が大きかった。(保護者と児童の希望優先にしたため、実態に合わないコースを選ぶことがあった。)

- ・実施単元・指導方法・内容の工夫が必要。(プリント学習中心への不満・算数的活動の取り入れ方)
- ・コース別に分かれた際の指導者・教室(学習スペース)の確保が難しい。

(iv) 成果の普及方策

- ・上北郡校長研究協議会での報告、学校ホームページ作成予定、拡大校内研として公開予定(三沢市内の小学校)

(v) その他

- ・「基礎・基本の時間」の実施 (月に1回 45分間・年間10回)  
計算と語彙の田研式学習進度指導検査を行い、採点結果から児童一人一人の学習進度を確認し、サポートドリルで学習する。サポートドリルは1年～6年まで段階的に全部で100枚程度ある。